

稲作管理特報

令和8年4月27日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

気温が上昇しやすい時期です。育苗管理は換気を徹底し、健苗育成に努めましょう。高品質な「みな穂産米」生産のため、5月15日を中心とした田植えと適正な植付本数・植付深さ、70株植えと浅水管理で、初期分けつの発生を促しましょう。

1 4月下旬以降の育苗管理 ～ハウス内温度25℃以下を目安に換気を徹底～

- 曇りでも日射があればハウス内温度は上昇するため、昼間は換気を徹底しましょう。
- 緑化期以降は1日1回早朝に苗箱の底まで十分浸透するようかん水しましょう。
晴天日や風が吹く日は、日中でも培土の乾きに応じてかん水しましょう。
- 田植え1週間前頃を目安に、夜間もハウスを開け、外気に慣らしてください。
ただし、気温が5℃以下になると予想される場合は閉めましょう。
- 「ばか苗」は必ず抜き取り、抜き取った苗はハウスに放置せずに埋設しましょう。

2 代かき ～浅水で稲わらを埋没させ、ほ場の均平に努める～

- 代かきから田植えまでの日数が長いと雑草の生育が進むので、代かきは田植えの2～4日前に行いましょう。また、代かきは浅水状態で稲わらの埋没とほ場の均平に努めましょう。
- 一発肥料の被膜殻の流出防止のため、代かき後の濁り水は、ほ場外に流さないようにしましょう。また畦畔沿いに吹き寄せられた浮遊物は除去の上、廃棄しましょう。

3 基肥 ～適正な基肥量を施用する～

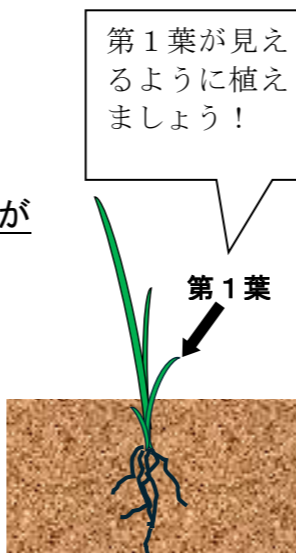
品種	施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)
コシヒカリ	一発肥料	Jコートコシヒカリ1号または2号	38(側条)
	分施	基肥206	30(側条)

※春に牛・豚ふんを1～2t/10a、鶏ふんを100kg/10a以上散布したほ場は、
基肥の施用量を1～2割減肥しましょう。

- 田植前には施肥量調節ダイヤル値を確認し、一定距離を走って落下量を確認しましょう。また、ほ場毎に肥料の施用量を確認しましょう。

4 田植え ～適正な植付けと水管理で、初期茎数の確保に努める～

- 植付株数は70株/坪、植付深さは3～4cm、植付本数は3～4本/株となるよう田植機を調整し、初期茎数の確保に努めましょう。
- 初期病害虫の発生防止のため、苗箱施薬剤を散布しましょう(稲作管理特報2号参照)。また、密苗については苗箱数に応じて、10a当たりの投薬量が1kgになるよう調整してください。
- 田植え後3日程度は、苗が水没しない程度のやや深水にして、植え傷みを防ぎましょう。また、低温や強風時もやや深水にして、苗を保護しましょう。
- 活着後は、朝または夕方に入水、日中は止め水とし、2～3cm程度の浅水管理で初期分けつの発生を促しましょう。



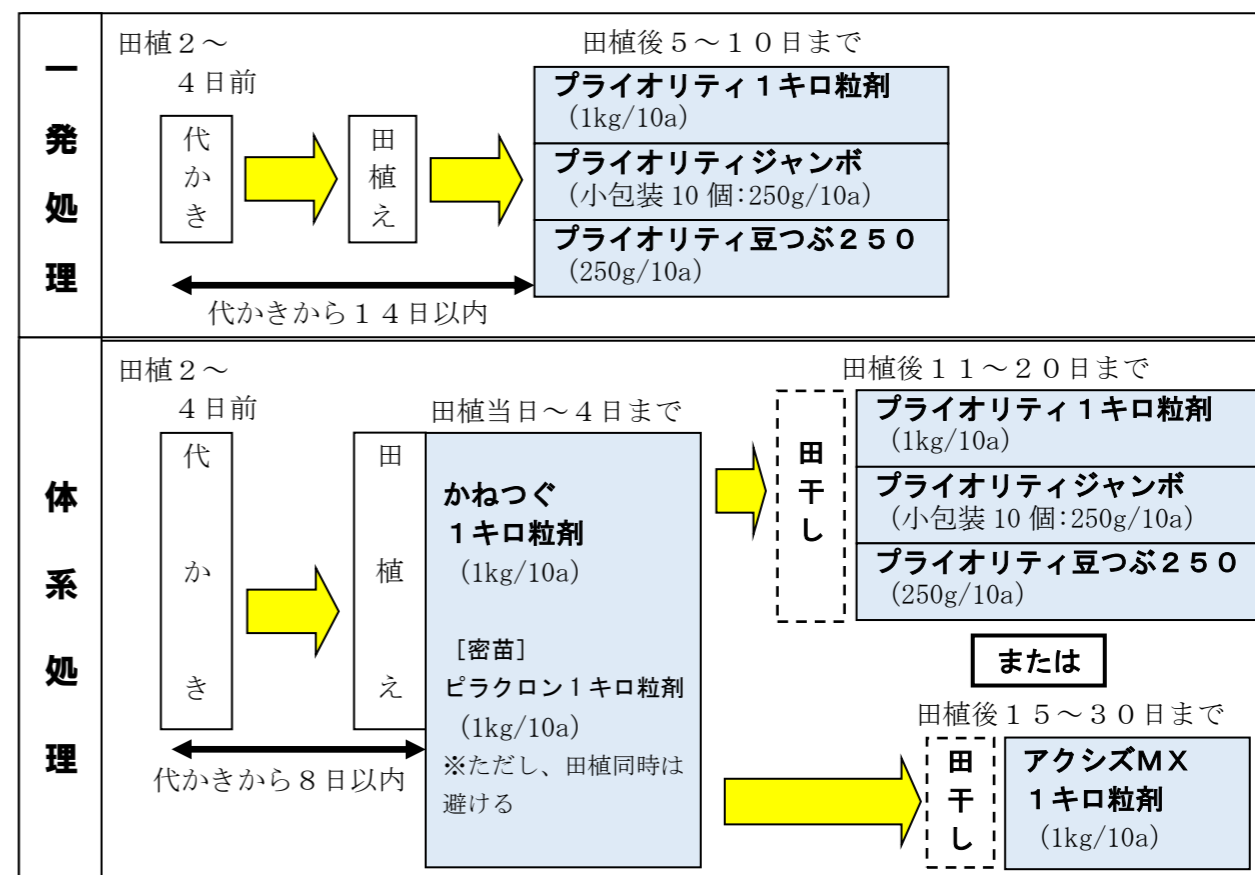
- 近年、秋も高温傾向にあり、ひこばえの発生量が非常に多くなっています。特に秋耕未実施のほ場では、春の気温上昇に伴い急激に還元化が進みます。田が湧いたら、軽い田干しや水の入れ替えにより、有毒なガスの発生を抑制しましょう。



秋の高温によりひこばえが生育したほ場が多く、湧きの発生が懸念

5 除草剤の散布 ～使用方法を厳守し、適期に散布する～

- 散布前に5cm程度入水し、5日間は湛水状態を保ち、水持ちの悪いほ場は、ゆっくりと入水し田面の露出を避けてください。散布後7日間は落水をしないでください。
- 体系処理の場合、2回目の除草剤散布直前に軽い田干しを1～2日程度行い、有害なガスの発生を抑制してください。



＜かねつぐ1キロ粒剤を田植え同時処理する場合の注意点＞

- 漏水の多いほ場では使用しないでください。
- 軟弱徒長苗は、田植え同時処理を控えてください。
- 極端な浅植えや深植えにしないでください。
- 田植え後は、直ちに入水してください。

農薬は使用基準を正しく守り、使用後は栽培記録簿に必ず記載しましょう。

【配信される主な内容】

- 営農メール：水稻栽培情報、気象・災害情報
- LINE：稲作管理特報などの各種特報



営農メール



LINE

春の農作業安全運動（令和8年3月～5月）